

# 『日葡辞書』中の、イソップ寓話から採った用例文 —『エソポのハブラス』との対比—

金森 亜希・菊地 真由子・曳田 美那  
(北海道教育大学札幌校基礎学習開発専攻)  
吉見 孝夫

## I 『日葡辞書』中のイソップ寓話

イエズス会の手によって1603年に長崎で刊行された『日葡辞書 (Vocabulario da Lingoa de Iapam)』には、イソップ寓話から採った用例文がいくつがある。それらはすべて『エソポのハブラス』中の該当箇所の表現とほぼ一致するが、必ずしも完全に同一ではない。この小論は、『日葡辞書』中のイソップ寓話からの用例文と、それに該当する『エソポのハブラス』中の文とを対比させるものである。

## II 『エソポのハブラス』との対照表

『日葡辞書』中のイソップ寓話からの用例文の所在と、『エソポのハブラス』の該当箇所を示したのが以下の表である。

### 【注記】

- ① 『日葡辞書』の用例文の順に番号を付す。
- ② 『日葡辞書』の用例文の見出し項目、所在箇所を「Cutçugayexi, fu, eita. (68l/174r)」のように示す。スラッシュ (/) の前の数字は『日葡辞書』原本のページと段であり、スラッシュの後のは土井忠生・森田武・長南実編訳『邦訳日葡辞書』(岩波書店、1980年5月) のページと段である。原本は和本の丁付けのよう表裏が同じページ番号となっている。原本の裏ページは「79v」のように「v」で示す。原本、邦訳とも左右の2段組であり、「l」「r」で左段、右段を示す。
- ③ 『エソポのハブラス』の該当箇所のページ、行、寓話番号を「497-17／下38」のように示す。スラッシュ (/) の前がページ、行であり、スラッシュの後が寓話番号である。寓話番号がないのは、「エソポが生涯の物語略」の部分である。
- ④ 参考までに仮名草子『伊曾保物語』の該当する寓話の巻次、寓話番号を「中1」のように示す。

	日葡辞書	エソポ	伊曾保
1	Caqeuochi(38r/95r)	497-17／下38	ナシ
2	Cutçugayexi(68l/174r)	472-17／下4	ナシ
3	De(71l/182r)	466-20／上24	下6
4	Fanecaqe(79vl/204l)	410-15	上3
5	Faqicaqe(80r/206r)	468-17／上24	下6
6	Faxxi(84l/216l)	462-1／上19	中33
7	Fixi(97vr/252l)	446-9／上4	中14
8	Furitçumi(110vr/283l)	497-2／下38	ナシ
9	Maqitate(152l/385r)	491-20／下31	ナシ
10	Neburitçuqi(179vr/456l)	423-12	ナシ
11	Nomisonji(185vl·471l)	417-22	上7
12	Qirifazzuxi(200l/507r)	467-1／上24	下6
13	Tame(239r/608r)	482-14／下16	ナシ
14	Tomonai(260vl/659r)	446-19／上4	中14
15	Vague tamari(267l/676r)	495-22／下36	ナシ

### III 『エソポのハプラス』本文との対比

以下に、『日葡辞書』の用例文と、それに該当する『エソポのハプラス』の本文とを対比させて示す。

#### 【注記】

- ① II の対照表同様に『日葡辞書』の用例文の順に番号を付す。
- ② 『日葡辞書』の用例文の見出し項目、所在箇所、原文を偶数ページに記し、改行箇所を「/」で示す。所在箇所の表示はIIの対照表の注記②に従う。
- ③ 用例文の下に『邦訳日葡辞書』に従って、漢字仮名交じりの翻字を付す。
- ④ 『エソポのハプラス』の該当する本文を奇数ページに原文通りに記し、改行箇所を「/」で示す。該当箇所の表示はIIの対照表の注記③に従う。
- ⑤ 『エソポのハプラス』本文の下に、大塚光信『エソポのハプラス私注』（臨川書店 1983年3月）に従い、漢字仮名交じりの翻字を付す。

## 『日葡辞書』

1 Caqeueochi. (38r/95r)

Inochiuo/ iqeôto mina caqeueochiuo xita.

(命を生けうと皆駆落をした)

2 Cutçugayexi, fu, eita. (68l/174r)

Niuacani acufù fu-/qi qitatte fune uo tachimachi cutçuga-/yesôto xita.

(俄に悪風吹き来たつて船を忽ち覆さうとした)

3 DE. (71l/182r)

Vareraga chica-/radeua fiqi aquegatai .

(われらが力では引き上げ難い)

4 Fanecaqe, uru, eta. (79vl/204l)

Are coso fono jucuxiouo-/ba tabetareto fanecaqeôzure.

(あれこそその熟柿をば食べたれと跳ねかけうずれ)

5 Faqicaqe, uru, eta. (80r/206r)

Fitono vyeuo vttayuru monoua chi-/uo fucunde fitoni faqicaqruto vonaji/ cotogia.

(人の上を訴ゆる者は血を含んで人に吐きかくると同じ事ぢや)

6 Faxxi, furu, ita (84l/216l)

Connichi yori chôruino ichimonuo/ fassuruzoto.

(今日より鳥類の一門を破するぞと)

7 Fixi, furu, ita. (97vr/252l) ママ

Vare iqî-/uo niangirani fixözuru monode nai .

(我勢汝らに比せうずるものでない)

8 Furitcumı, u, unda. (110vr/283l)

Niuacani yuqiga furitcunde,/ tani, mineno vaqemo miyezu.

(俄かに雪が降り積んで、谷、嶺の分けも見えず)

9 Maqitate, tçuru, eta. (152l/385r)

Sono tçucaneuo/ totte amatauo fitotçuni xite nauauo mot/te vomôsama maqitatete,& c.

(その束ねを取つて数多を一つにして縄を以て思うさま巻き立てて、云々)

10 Neburitçuqi, u, uita. (179vr/456l)

Inuuua neburitçuqi, caburitçuqi, xujinno qi/uo toru monogia.

(犬は舐り付き、かぶり付き、主人の気を取るものぢや)

## 『エソポのハプラス』

1

inochiuo iqeôto mina caqevochiuo/ xita. (497-17)  
(「……命を生けう」と、皆駆け落ちをした。)

2

niuacani taifûga fuite qite/ funeuo cutçugayesôto sureba, (472-17).  
(にはかに大風が吹いて来て、船を覆さうとすれば、)

3

vareraga chicaradeua fiqague gatai: (466-20)  
(「……我らが力では引き上げ難い。……」)

4

arecofo sono jucuxiuoba tabetareto fanecaqeôzuruni, (410-15)  
(「……『あれこそその熟柿をば食べたれ』とはねかけうするに、……」)

5

fitono vyeuo vttayuru monoua, chiuo fu-/cunde fitoni faqicaquruto vonaji coto gia:  
(468-17)  
(「……人の上を訴ゆる者は、血を含んで人に吐き掛くると同じ事ぢや。……」)

6

connichiyori chôruino ychi-/monuo fassfuruzoto (462-1)  
(「……今日より鳥類の一門を破するぞ」と)

7

vare iqiuimo nangirani fixôzuru monode naqere-/ba, (446-9)  
(「……我勢も汝らに比せうするものでなければ、……」)

8

niuacani yuqiga furi/tcunde, tani mineno vaqemo miyezu, (497-2)  
(にはかに雪が降り積んで、谷・峰の分けも見えず、)

9

sono tçucaneuo/ totte amatauo fitotçuni xite, nauavomotte vomôfama/ catô maqitatete,  
(491-20)  
(その束を取って、あまたを一つにして、縄をもって思ふさま堅う巻き立てて、)

10

neburitçuqi caburitçuqi/ xite xujinno qiuo toru monode gozaru fodoni, (423-12)  
(「……舐りつき、噉りつきして、主人の気を取るものでござるほどに、……」)

- 11 Nomisonji, zuru, ita. (185vl/471l)  
Moximata nomisonzuru-/ni voiteua, icqeno zaifôuo cotogotocu/ mainaini xinjôzu.  
(若しまた飲み損するに於いては、一家の財宝を悉く賂に進ぜうず)
- 12 Qirifazzuxi, u, uita. (200l/507r)  
Arufito catanauo nuite, vôca-/meuo qirôto xitaga, qirifazzuite vouo/ vchiqitta.  
(或る人刀を抜いて、狼を斬らうとしたが、斬り外いて尾を打ち切つた)
- 13 Tame, uru, eta. (239r/608r)  
Vareuo mite fitoaximo tameide nigue yu-/qu.  
(我を見て一足も溜めいで逃げ行く)
- 14 Tomonai, ñ, ñta. (260vl/659r)  
Fitoua tada varení fitoxij fitouo to-/monauõ cotogia.  
(人は只我に等しい人を伴はう事ぢや)
- 15 Vague tamari, u, atta. (267l/676r)  
Febi vague tamatte itaga, niua-/cani fuguni natta .  
(蛇綰げたまつてゐたが、俄に直になつた)

11

moximata nomifonzuruni/ voiteua, ycqeno zaifōuo cotogotocu mainaini xinjō/zuto  
(417-22)

(「……もしされた飲み損ずるにおいては、一家の財宝をことごとく賄賂に進ぜう  
す」と)

12

arufito catana/uo nuite qirōto xitaga, qirifazzuite vouo vchiqitta/reba: (467-1)  
(ある人刀を抜いて切らうとしたが、切りはづいて尾を打ち切ったれば、)

13

vareuo mite fitoaxi/uo tameide nigueyuquyoto (482-14)  
(「……我を見て、一足をためいで逃げ行くよ」と、)

14

Fitoua tada vareni fitoxij fitouo tomonauō coto/gia: (446-19)  
(人はただ、我に等しい人を伴はうことぢや。)

15

febi vaguetamatte yta/ga, niuacani fuguni nattauo (495-22)  
(蛇わげたまって居たが、にはかに直になったを)